

令和5年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立鯉江東小学校

令和6年2月

令和5年度

令和5年2月

学校運営の計画「学校評価」分科会分担表

大阪市立鯉江東小学校

【安全・安心な教育の推進】			
【安全・安心な教育環境の実現】	人権教育 【いじめ】 取組内容①④	① 渡部（いじめ） ④ 青木（不登校） 山西、中村拓、 森田、田中	理科室
	道徳との関連 【規範意識】 取組内容②③⑤⑥	② 高橋（きまり） ③ 向山（自尊心） ⑤ 河内（異学年交流） ⑥ 辻（あいさつ） 藤井、浅尾	

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】			
分野		担当	場所
【誰一人取り残さない学力の向上】	校内研修 【教員の指導力向上】 取組内容①	① 浅井（指導力） 梅林、美甘 金井、小森	家庭科室
	学習指導 【学力向上への取組み】 取組内容③	③ 柿本（学力向上） 中村友（外国語） 樋上	
【健やかな体の育成】	体力の保持増進 【体育的活動の充実】 取組内容②④	② 宮下（体育） ④ 山下（保健） 梅本（給食） 山元、奥野 馬場、	

【学びを支える教育環境の充実】		
【教育DXの推進】	① 渡邊・橋詰	理科室
【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	② 鈴木・松田	

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（ ① ） 番

まとめ役名前（ 渡部 宏二 ）

進捗状況平均【A・②・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○月1回の職員会議後の生活事案の確認を行うことで、教職員間の情報共有ができた。 ○児童アンケートでの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答する割合は、95%に達しているが、最も肯定的に回答している割合は86.5%であった。 ○各学年否定的な回答をした児童が一定数いることや、自分の言動や行動がいじめにつながるものだと理解していない児童もみられる。
来年度への改善点
○今後も些細なことでも、教職員間での共有を図っていく。 ○心の天気、いじめアンケートの活用を図り、日々の生活の中で「いじめは何があってもしてはいけないもの」として徹底していく。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（④）番

まとめ役名前（青木）

進捗状況平均【A・②・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年2回（年度初め・年度末）の児童理解研修会や毎月の不登校児童対策委員会で、児童の実態や状況把握をし、情報共有や共通理解を図ることができた。また、保護者や関係諸機関とも連携をとりながら、対応にあたることができていた。しかし、不登校や不登校傾向の児童が減少するには至っていない。

来年度への改善点

引き続き、児童の状況を把握し、情報共有に努め、全教職員で関わるようにしていく。また、保護者やスクールカウンセラー等の関係諸機関とも連携しながら、不登校児童の改善を図っていく。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（２）番

まとめ役名前（ 高橋 ）

進捗状況平均【B】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・ 肯定的回答は、９割以上であった。 ・ 生活強調週間では、「安全な登下校」「進んで挨拶」「服装を整える」の３つの点において９割の児童ができていた。しかし、「正しい歩行」「忘れ物をしない」の２つの点については、９割をきる。また、児童の実態とのズレもあり、日々の学級指導や看護当番を中心とした見回りなどが大切である。 ・ 運営委員会の児童が中心となって、前期では「正しい歩行」、後期では「進んで挨拶」の啓発をおこなった。児童が主体となり、意識を高める工夫がされ良い取り組みとなった。 ・ できている児童への称賛を忘れず、教職員の生活指導に対する意識の統一や、家庭への啓発などを行っていく必要がある。
来年度への改善点
・ 生活強調週間の項目に、児童の実態に則した課題を盛り込む。 ・ 年度始めに、生活指導事項の共通理解をおこない、学級単位で差異がでないようにする。教職員の統一した認識があつての継続指導が必要である。 ・ 児童が主体となった取り組みをおこなう。 ・ 個々でおこなっている具体的な指導方法を共有し、生活指導に活かす。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（ 豊かな心の育成 ）③番 自尊心

まとめ役名前（ 向山 美代子 ）

進捗状況平均【A・**B**・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○児童に対する校内アンケートの「自分には好きなのところがありますか。」（「自分にはいいところがありますか。」）の項目について肯定的な回答をする児童を85%以上にするという指標に対し、86.3%の児童が肯定的な回答をし、目標を上回った。 ○道徳、当番・係活動などを中心に、お互いを認めたり褒めたりする活動が行われた。 ○否定的な回答をした児童が14.7%もいるということに目を向けていく必要がある。
来年度への改善点
・校内アンケートの項目が「自分にはいいところがあると思いますか。」のままだったので、「自分には好きなのところがあるますか。」に変更する。 ・「互いを認め合う活動」がそれぞれの学級でどのように行われているかなどを交流し、活動の例を多く知ること、様々な児童のニーズに合う取り組みを実践していくことができるようにする。 ・否定的な回答をした児童をリストアップして把握し、その児童の生活背景や学習状況などを共通理解するようにする。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（ ⑤ ） 番

まとめ役名前（ 河内 ）

進捗状況平均【A】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・年間を通して、児童集会やスクールフェスタ、全校オリエンテーリングなどで異学年交流を行うことができた。たてわり班活動では協力しながら活動し、班の人たちと関われる遊びを楽しそうにしている姿が見られた。 ・校内アンケートの「友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目では、肯定的な回答の割合が 96.8%であり目標を達成することができたが、あてはまると回答した割合は 66.8%であった。
来年度への改善点
・来年度もスクールフェスタや全校オリエンテーリングなどのたてわり班活動を継続して行っていく。 ・今後人数が増えていくことも考えて、たてわり班ではなくペア学年に変更するなど活動の仕方も検討していく。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（ 6 ）番

まとめ役名前（ 辻 ）

進捗状況平均【B】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○校内アンケート「進んであいさつをしているか」の項目において肯定的回答の割合 目標 75%以上に対し結果 92.7%。 ○校内アンケート「地域の見守り隊の人」「学校へのお客様へ」のあいさつの項目において肯定的回答の割合目標 90%以上に対し結果 96.2%。 アンケート結果においては目標が達成されているものの現実との隔たりがみられる。特に「進んで」という面では不十分であると思われる。実際はできている児童とそうでない児童との二極化があり、個人差も顕著である。
来年度への改善点
継続的な声かけと、教職員が率先してあいさつや感謝の意を伝える姿をみせることが大切である。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（ ① ）番

まとめ役名前（ 浅井 悠人 ）

進捗状況平均【A・B・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・A10 B17 ・指標をすべて達成している。 ・国語科読解力をつけるために学年・学校で協力して取り組むことができた。 ・研究授業では、学年で考えることにより、深く研究することができた。
来年度への改善点
・来年度も国語科の研究に取り組む。 ・国語科の研究を深めるために、算数タイムをなくし、読解タイムや読書タイムなどの時間を増やす。 ・来年度は全クラス研究授業する。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（４－③）番

まとめ役名前（柿本 中村友）

進捗状況平均【A・**B**・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○総合の時間を中心にさまざまな教科で ICT 機器を活用する学習場面を設定できた。 ○「一人学び」で自分の考えをもち、ペアや小集団で交流することで、主体的で対話的な学びにつながった。 ○学校アンケート「外国語（英語）の勉強は好きですか。」において、否定的な回答が 8.8% 最も否定的な回答が 23.7%と厳しい結果内容となった。 ○英語教育の環境（見る環境・聞く環境）を整えていっている。低学年から、英語に慣れ親しむことができるように、イングリッシュタイムに C-NET に入ってもらえることになった。
来年度への改善点
・ ICT 機器の活用例を共有していく。 ・ アクティブラーニングを意識し、すべての児童が自分の考えをもち、交流によって深められるような学習活動を工夫し、展開していく。 ・ 英語の研修内容でもあったように、DREAM は Grade 1～3 でよいことが分かった。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（２）番

まとめ役名前（ 宮下 健太 ）

進捗状況平均【A・**③**・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○柔軟性・体幹は全学年共通して、宿題で取り組むことができている。運動委員を筆頭に「ナイス体幹」の言葉で説明会をして前向きに取り組めるようにした。 ○「運動をするのが好きですか」の項目において最も肯定的な回答をする児童の割合は71.8%と目標を上回ることができた。2学期3学期と取り組みを実施したので、技術と意識も高まってきた。
来年度への改善点
○どの学年も宿題で取り組めるように、学期初めに講堂で説明会を開いていく。 ○投げる力を自らが高めようとする意識をもたせたい。そのためスポーツテストの記録をいつでも見て、去年や前の学期と比べることができるように子ども用として残しておく。（例：キャリアパスポートと一緒に保管しておく）また、15分休みにボールを使って遊ぶような呼びかけをしていく。

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（ 4 ） 番

まとめ役名前（ 山下 ）

進捗状況平均【A・**③**・C・D】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○毎週の清潔調べ、忘れ物0クラスの掲示だけでなく、表彰や忘れ物0クラスの取り組み紹介などをし、児童がハンカチ、ティッシュを携帯する意識を高めることができた。保健委員会による週1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持ってくる」と答える児童の割合はどのクラスまでとはいかなかったが、ほぼ80%をこえていた。学校全体では94%をこえていた。

○昨年度の治療受診率が85.1%と非常に良い数値で、今年度は発行数も70ほど増えたこともあり超えるのは難しかった。しかし、冬休み前の保健指導もあり、1学期の47.1%から3学期は71.3%と受診率は大幅に上がった。

○年2回の栄養指導により、食に関心を持てるようになった。元気もりもり週間において、「残さず食べた」と回答する児童の割合は94%をこえていた。自分の食べられる量に合わせて食べることができている児童が増えた。

来年度への改善点

○ハンカチ、ティッシュ調べの方法の検討、忘れ物0クラスの掲示、表彰の継続
ハンカチ、ティッシュの携帯が習慣づけるような学級での取り組みを実施

○治療勧告数の捉え方の検討、未受診家庭への働きかけの継続

○給食がんばりカードの活用、普段から残食0を意識できるような給食指導

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容 (①) 番 教育 DX の推進

まとめ役名前 (渡邊 勇輝)

進捗状況平均 【 B 】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

○低学年は、新たな端末に慣れ親しみ、3年生以上はデジタル教材や協同学習支援ツールを活用する。

指標

○校内アンケート

低学年「タブレット端末での学習は楽しかったですか。」 肯定的な回答 80%以上

高学年「協同学習支援ツールを利用して意見を交流したり、考えを発表したりするのは楽しかったですか。」

肯定的な回答 70%以上

- ・高学年のアンケートにおいて、指標未達成 (79%)。
- ・低学年のアンケートでの否定的な回答は 16%、高学年では 20%を超える。
高学年での指標には、意見交流が入っているが、意見交流でのパソコンの活用場面が少ないことから結果が伸びなかったことも考えられる。また、そもそも意見交流や発表にパソコンを使っていない児童が「楽しくない」と回答している可能性も高いと考えられる。パソコンを活用した学習を教育委員会が推進していることも踏まえ、指標を変更して来年度の学校を運営していくことも検討する必要があるのではないかと考える。
- ・パソコンの活用方法を教職員間で共有していきたいとの意見が多くあった。
- ・スクールライフノート、デジタルドリル、総合の学習など、パソコンを用いた学習の機会の細かに書いていただいた教職員の方々がたくさんいた。学習の中での使用機会は着実に増えてきている。

来年度への改善点

- ・取組内容は「活用する」となっており、指標は「楽しかったですか」となっているため、取組内容と指標の食い違いがあるのではないかと考えられる。高学年のアンケートは「パソコンを使って、友達の意見を聞くことができましたか」と指標を変更することで、校内で活用されているかの進捗状況の把握ができる。
- ・活用方法の共有を行う。実際に使用したものを見ないと想像がつかないものもあることが予想されるため交流会形式で行うか、使用した教材を保存して誰でも使用・参考にできるようにする。
(共有フォルダ・スカイメニュークラウドの学校フォルダ)

学校運営の計画「学校評価」最終評価分科会まとめ

取組内容（②）番

まとめ役名前（鈴木 健太）

進捗状況平均【 B 】

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○「教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になるようにする。」の項目において、今年度の繁忙期にあたる9月から12月で比較を行った。昨年度より残業時間が45時間以下の教職員の割合が約30%以上も向上している。 ○毎週のゆとりの日を設定することで残業する日としない日をつけメリハリをつけて業務にあたる教職員が多い。 ○仕事量に偏りがあることは事実であり、ゆとりの日などから持ち帰りの仕事があるという現状もわかった。
来年度への改善点
○今後も行事や会議の精選を続けていくことが重要である。 ○ゆとりの日の設定による勤務にメリハリが付き良いことではあるが、持ち帰りの業務が増えている現状がある。そこで持ち帰り業務内容を把握し、業務量の改善と分担を考えるようにする。 ○業務量の偏りがある事実から、その改善に向けて役割の分担をしっかりと考えていく必要がある。